

台湾介護市場で働く失踪外国人介護労働者の現状

～失踪労働者インタビューによる一考察～

Working in the Care-giving Industry as an Unauthorised Migrant in Taiwan

～A Study based upon Interviews with Unauthorised Migrants～

鄭 安君 (宇都宮大学)

Cheng, An-chun (Utsunomiya University)

キーワード：失踪外国人介護労働者、介護市場、仲介業者、台湾

1. 研究目的と研究方法

2017年1月末現在、台湾には237,295人の外国人介護労働者がおり、9割は住み込みの家庭外国人介護労働者である(労働部)。外国人介護労働者は台湾にとって重要な介護労働力である一方、失踪者の数が最も多いとの指摘がある(顧、2010)。外国人労働者の失踪は基本的には正規の外国人労働者から非正規滞在外国人になることである。失踪外国人介護労働者は失踪後にどのような仕事をしているか。多くの外国人介護労働者が失踪した後も介護労働者として働いているとの指摘がある(許、2006)。なぜそのような現象が起きているのか。非正規滞在外国人を雇用する労働市場の実態は把握しにくいと指摘されているが(田巻、2005)、本研究は失踪ベトナム人女性介護労働者3名、台湾の外国人介護労働者をよく知る合法仲介業関係者3名のインタビューを基に、台湾の介護市場における失踪労働者の現状および失踪者を必要とする台湾介護市場の背景を考察する。

2. インタビューした失踪外国人介護労働者の概況

今回の調査では3名のベトナム人失踪者をインタビューしたが、うち2人は台湾においての失踪期間が10年近くにもおよび、ベトナム人失踪者の状況をよく知る人物である。インタビューは2017年2月15日にA氏の住居で非構造化インタビューの形で合計7時間ほど行った。失踪10年目のA氏(45歳、北部タイビン市出身)は、13年間台湾に暮らし、漢字は読めないが中国語は流暢である。怪我や死亡したベトナム人労働者の支援活動も行っているため、A氏は台湾のベトナム人労働者コミュニティの中では、リーダー格的な存在でもある。失踪9年目のB氏(41歳、北部ハイズオン省出身)も13年間台湾で暮らし、漢字も読めて中国語能力が高い。失踪して5ヵ月間のC氏(30歳、中部ゲアン省出身)は台湾に来てまだ1年くらいではあるが、意思疎通が十分な中国語レベルである。

インタビューでは、3人の台湾への出稼ぎ理由、失踪した理由、そして失踪後の仕事を聞いた。出稼ぎの理由は主に家族の経済状況の改善を図るためであるが、夫婦関係の拗れも一つの大きな理由とみられる。台湾を選んだ理由は台湾へ行く人が多いこと、他の国と比べて短い準備期間で行けること、そして仲介費は受け入れられる範囲内であることなどがある。また、失踪を選択した理由としては、3人ともに複数の理由が複雑に絡んでいるが、A氏は雇用主の不誠実の対応および台湾政府の新規ベトナム人家庭介護労働者の受け入れの一時停止に起因している部分が多い。B氏は介護施設における不平等の扱いへの抗議と雇用主の対応の悪さに起因している部分が多い。そして、C氏は介護施設における過重労働からのストレスと疲れおよび相談窓口の無さに強く起因している。

3. 失踪外国人介護労働者の仕事と仲介市場

失踪後の仕事については、3人は介護労働、家事労働、工場労働、レストラン料理担当、ビル掃除、民宿労働など様々な仕事をしてきたが、特に介護労働の仕事の機会が多いことがわかった。A氏は10年の失踪期間の半分以上の仕事が介護労働であり、B氏は9年の失踪期間の殆ど仕事が介護労働である。そして、その失踪後の介護労働の仕事において2つの特徴がみられた。1つは介護労働者の仕事が短期的であることが多いことである。家庭内介護の仕事は1ヵ所で数年間働くこともあるが、数週間、または数ヵ月間のものが多い。さらに、病院での介護の仕事は僅か数日で雇

用主（要介護者）が変わることがよくある。主に家庭内介護の仕事をしてきた B 氏は 9 年間に 30 名以上の要介護者を介護したが、病院で約 3 年間介護の仕事をした A 氏は病院で自身も数えきれない数百人の要介護者を介護した。

2 つは、失踪後の介護労働の仕事は殆ど台湾人仲介業者に紹介されたことである。その理由としては、A 氏は中国語を読める台湾人でなければ、仕事の在りかを把握しにくいと指摘した。また、B 氏は 6 人の仲介業者を通して働いてきたが、よりメリットの多い仲介業者を選択してきたという。B 氏は現在、仲介業者の協力で外国人配偶者を偽って働き、一般の失踪者より高い給与を得ている。そして、失踪者の介護労働の給与および仲介費はある程度の相場が形成されており、近年では主に日単位の計算で行われていることもインタビューからわかった。介護労働の給与は要介護者の要介護度に応じて異なり、雇用主から失踪者に直接渡しているが、仲介業者は失踪者が働いた日数を月末に統計し、失踪者から仲介費を直接に徴収している。このような失踪者の仕事仲介システムの存在は 3 名の合法仲介業者関連者のインタビューからも確認できた。特に合法仲介業者の経営者である X 氏は失踪者の介護労働市場にも詳しく、失踪者 A 氏と B 氏が語った失踪者の賃金体制と同じような内容を回答し、台湾における介護人材の不足で、失踪者の給与相場が上昇していると話した。さらに、X 氏は外国人介護労働者の失踪原因は失踪者を必要とする市場の存在および政府の外国人介護労働者の受け入れ政策の失敗にも強く関連すると指摘した。

4. 台湾の介護市場の現状と失踪外国人労働者

少子高齢化が進む台湾は約 78 万人の要介護者がいるが、家庭内介護が今でも主流である。介護関連施設の最大受け入れ人数が約 11 万人であるが、高齢者の介護施設への入居には消極的で、介護施設の入居率は 8 割以下である。また、データーサービスの利用者数も僅か 3 千人程度で、介護関連業者のホームヘルプサービスを受けている要介護者も 5 万人弱しかいない（衛生福利部統計処）。23 万人を超える外国人介護労働者は、台湾の介護を支えているが、その理由は政府の政策で抑えられている雇用コストの安さにある。

一方、台湾では、家庭外国人介護労働者を雇用したい場合、雇用主は収入ではなく、要介護者の身体機能と年齢で審査される。雇用主は外国人介護労働者を雇いたくても、雇えない場合がある。また、介護への需要は、予測が難しく緊急的に必要になる場合が多いが、台湾政府の政策により、外国人介護労働者が申請してから到着するまで 2.5 ヶ月以上かかる。外国人労働者の雇用主転換や外国人労働者の失踪による再申請は約 5 ヶ月間かかる。雇用主にとって介護労働力の空白期間が出る場合、短期的な介護労働者の雇用が必要になる。そして、台湾では、病院へ入院する際に付き添いで世話をする労働力が必要である一方、高齢者を介護施設に入居させても、同時に付き添いの外国人労働者を雇うことも多い。これらすべて介護人材を必要とするが、台湾人介護士免許の累計合格数は 4 万人も満たない。介護人材の不足問題を解決するため、台湾政府は外国人配偶者の介護市場参入を許可したが、依然として人材が不足している。その中、介護市場においての外国人配偶者の混在は逆に失踪者が短期的な介護労働力として働きやすい状況を作り出した。今日まで台湾には累計 23 万人の外国人労働者が失踪し、うち 6 割強は女性である。2016 年 9 月末現在、53,561 人の外国人労働者が失踪したままで、最も多いのは 49.8%の外国人介護労働者である（労働部）。台湾の介護市場が失踪者を必要とする背景には台湾政府の政策が関連しており、台湾介護市場の需要と供給のミスマッチより形成されているという現状である。

【主な参考文献】

- ・ 顧玉玲（2010）「自由的條件：從越傭殺人案看台灣家務移工的處境」國立交通大學社會與文化研究所碩士論文
- ・ 許淑媛（2006）「合法來台外籍看護工逃跑行為之研究」國立中世大學勞工研究所碩士論文
- ・ 田卷松雄（2005）「東・東南アジアにおける非合法移民」『社会学評論』第 56 巻第 2 号、p.363-380